Sony Institute of Higher Education SHOHOKU LIBRARY

湘北短期大学図書館 としょかんNEWS

vol.125
2017.9.20 発行

今号は、8月1日に実施した「第26弾 学生選書ツアー」のご報告をしたいと思います。学生選書ツアーは、年に2回（8月と2月）に行っています。1月と6月頃にメール・としょかんNEWS・掲示板などで参加者募集のお知らせをします。学科・学年など関係なく、どなたでも参加できますので、ぜひ、次の2月の開催には参加してください。

問 そもそも **選書** って何ですか？

答
1. 図書館に置く本を 多くの本の中から選びだすこと
2. 図書館の **目的** にあった本を選びだすこと

目的：湘北短期大学の多くの学生に図書館を利用してもらう！

学生のみなさんは、「図書館にこんな本があったらいいのに…」とか「この本はみんなにもオススメしたい！」など思うことはありませんか？
そんな希望がかなえられる、それが “ 学生選書ツアー ” です。

特集：第26弾 学生選書ツアー開催

10：00 本厚木駅北口 集合！ 学生17名・教員1名・職員2名

みんなで書店（有隣堂厚木店）へ向かいます。

10：10 有隣堂本厚木店で選書スタート！

有隣堂でご挨拶。店頭で選書をするにあたり、事前に以下の注意事項をお知らせしています。

選書の前に

- 選書の時間は限られているので、下調べをしてから参加しましょう。
  事前に選んだ本のリストなどを当日持参することをお勧めしています。
- 後日、自分が選んだ本を紹介するPOPを2点ほど作っていただきます。
  選んだ本については特別貸出が可能です（冊数制限なし）。
- 選書は一人20冊が目安ですが、調整も可能ですのでご相談ください。

対象外

- シリーズもの
- 雑　誌
- マンガ

一人一冊まで

ケータイ小説	タレントの本
映画のノベライズ	ミュージシャンの本
ドラマのノベライズ	スポーツ選手の本

12：10 選書は終了！現地解散

おつかれさまでした。あっという間に時間が過ぎ、無事に選書が終わりました。店頭での記念撮影では、みんなイイ顔をしていますね。友達がいないと参加しにくいなと躊躇している人も多いと思いますが、現地集合・現地解散、解らないことや困ったことがあれば職員がサポートしますので、お一人でも安心して参加できます。参加者には、後日、湘北ポイント100ptとおしゃれグッズをプレゼント！書店で実際に本を手に取って選べる貴重な体験です。ぜひ、次回、2月の選書ツアーにご参加ください！

その後① 図書館で本のデータを確認して、書店に注文します。

実際にどうやって書店で本を選んで買っているの？と思いませんか？　そう、選んだ本をレジに持って購入するのではないのです。今回は「豆っぴ」という機材（データコレクタ）が大活躍！参加者お一人に1台、お渡しします。

お・ま・け・情報

これが、豆っぴ！

レーザー読取り

9784883502134

←ＩＳＢＮ（アイ・エス・ビー・エヌ）
International Standard Book Number
※世界共通で図書を特定するための番号

● 書店では、参加者のみなさんが、それぞれ選んだ本の ISBN を豆っぴで“ピッ！ピッ！”と、読み取ってデータを集積します。その後、図書館で本のデータを全て確認してから、書店に注文するという流れになっています。

その後② 本が届き、いろいろな作業を経て、展示コーナーに設置されます。

参加者のみなさんには、2つほど POP 作成をお願いしています。その POP を見て、興味を魅かれて借りてくれるかどうか…　POP には大きな役割があります。その素敵な POP を添えて、「第 26 弾学生選書ツアー」展示コーナーを設置します。貸出の準備ができたら、選んでくださった方にはメールでお知らせしますので、お楽しみに。

Book Display

図書館2階カウンター前に展示コーナーを設置します。
約 200 冊！9 月下旬予定！

連載 Relay Essay No.41 「私の好きな本と図書館の想い出」　CS 部 竹内 淳

私は自然科学が好きで様々な自然系のドキュメンタリーを欠かさず見ている。特に NHK の「プラネットアース」や「オーシャンズ」は DVD で愛蔵している。これは子供の頃、父親が買ってくれた「ファーブル昆虫記」や「シートン動物記」の影響だと思う。昆虫、鳥類、魚類、植物、動物の図鑑も買い揃え、NHK の「自然のアルバム」を観て育った。現在も NHK BS「ワイルドライフ」は毎週、欠かさず観ている。

日本の何処にあるのかさえ分らず、県庁所在地がクイズの問題になる島根県に育ち、家の周りが「自然のアルバム」であった。

小学生の夏休みはセミやトンボ採りやアユ釣り優先で宿題は必ず後回しになった。大学は間違って理工学部に進み、毎週の実験レポートは地獄だったが、偶々優秀な同級生と友達になり、大学図書館通いが始まった。その同級生が雑誌「トランジスタ技術」の愛読者でマイコンを一緒に勉強できたのが縁で、インテル（半導体の最大手）の CPU（マイクロプロセッサ）を販売する商社の営業職に就いた。

その頃は PC や卓上ゲームの黎明期で CPU や東芝で有名になったメモリーが飛ぶ様に売れた。半導体の他社販売を始めたソニーが私を出来る営業と勘違いして声が掛かり転職した。一緒に転職してくれた後輩たちが優秀だったので、今では半導体がソニーの利益に大きく貢献している。

そんな私が勧めたい本は私の故郷の文豪、森鴎外の「高瀬舟」である。小学生の時、夏休みの宿題で感想文を書き、最近、読み直した。島流しとなった弟殺しの罪人が晴れ晴れしい表情でいるのを不思議に思い、「高瀬舟」で護送する役人が問いかける物語である。「足りる事」の大切さを教えてもらった。是非、家族愛に涙する「山椒太夫」と共にご一読願いたい。

蛇足ながらタレントの森泉の祖母にあたるデザイナー森英恵も森鴎外と同じ島根県津和野町の生まれである。小京都と呼ばれる津和野町には絵本作家の安野光雅の絵画館がありとても魅力的で、日本庭園で有名な安来市の足立美術館と共に島根県の観光名所を紹介して終わりとする。